

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470800455
法人名	有限会社 エフ
事業所名	グループホーム いせ
所在地 (電話番号)	伊勢市一之木町4丁目11番31号 (電話) 0596-20-6565
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 10 月 22 日(水)

【情報提供票より】 (H20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 11 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算	13.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 50,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名	
要介護1	2 名	要介護2			5 名	
要介護3	7 名	要介護4			1 名	
要介護5	3 名	要支援2			名	
年齢	平均	85 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸クリニック、山田赤十字、藤田歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「最後まで人として心豊かに生きる」という理念を具体化するために、全職員が一体となり、時には補い合って取り組んでいる。グループホームの内部は非常に落ち着いた雰囲気があり、利用者との職員との触れ合いが自然である。職員は、人生の先輩である利用者から教えてもらう姿勢を大切に取り組んでいる。職員は意欲的であり、研修の機会があれば参加し、資格取得にも励んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域とのつきあいでは、地域に老人クラブがあるかどうか、その動きは把握していないが、事業所としての行事には気楽に参加していただけるよう、近隣に声かけをしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	近隣への声かけにより、事業所で企画した歌謡ショー、茶話会、マジックショー等に地域の人たちが参加している。地域で介護教室を実施するなど事業所の機能を生かす働きかけがされるよう、今後の積極的な取り組みに期待したい。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回、定例的に開催している。行政への提案については、行政職員の都合があり日常的に働きかけるのは難しい状況であるが、事業所としての取り組みや提案、行政からの報告や情報、自治会からの行事、案内等を出し合い、意見交換している。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会が結成され、年1回実施されている。家族が来訪されたときは、「ホームだより」、健康チェック票、金銭出納帳、写真、関係資料等を渡し、事業所での暮らしぶりを説明し、意見交換している。来訪や家族会に出席されない家族には必要な資料を郵送している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣との関わりでは、地域の防災訓練や地域行事に参加したり、「ホームだより」を地域に配る等の取り組みをしている。今年から地域の盆踊りがなくなったが、運営推進会議での議論でビンゴゲームが計画、実行されている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者に対し、安心と尊厳ある生活を提供することを目的に、どんなに老いても障害を持っても「自らの力を使い、互いに助け合い、社会と繋がった人として当たり前の生活」というグループホーム独自の理念を掲げ、「最後まで人として心豊かに生きる」支援ができるように取組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	ミーティングの都度、理念について繰り返し話し合っており、その認識を深めている。その理念の具体化に向けて話し合いを積み重ね、やるべきことをやってきている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には事業所単位で自治会費を支払って加わり、その取組みに参加している。地域の盆踊り、餅つき、獅子舞、消防防災訓練等に参加したり、近隣の労働組合の餅まき等に利用者、職員が一緒になって参加している。また、グループホームの取組みを理解してもらえよう、事業所で発行する「ホームだより」を地域に配っている。	○	老人クラブが地域にあるかどうか等、情報を掴んでおらず、また事業所として、地域に向けて介護教室等を開くような取組みはされていないので、これからの課題として、グループホームの機能を活かしながら地域に働きかける取組みを具体化されるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価にあたり資料を全職員に回覧し、約1ヶ月かけ職員がそれぞれ気づいたところを書き込んでいる。その後ミーティングで意見調整し、まとめている。自己評価で議論され、気づいたことは具体化に向け検討している。問題によっては、その解決を求めて設置者(法人)にも働きかけるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定例的に開催している。事業所としての取組みや提案を報告、意見交換し、また行政からの報告や情報を把握し、今後の業務に反映させている。最近では、地震、天災等に備えた事業所としての災害時対応マニュアルの説明、事業所が主催する茶話会、歌謡ショー、マジックショー等、地域の人々にも参加してもらうよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者の多忙等で、窓口では時間をかけた話し合いはなかなかできないが、行政資料のやり取りや「ホームだより」を手渡しする等で関わり合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、「ホームだより」、写真、健康チェック表、関係資料等を渡し、担当者が最近の暮らしぶりを報告し、意見交換している。遠い家族には郵送している。また毎月の金銭出納は金銭出納帳に領収書を添付し、家族に説明、報告している。家族会を、年1回実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な意見を出していただけるのは、限られた家族ではあるが、家族と職員が顔なじみになった人もかなりあり、気兼ねなく話しあえるようになってきている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当法人では有料老人ホームも営んでいるが、施設間の異動はなく、事業所職員の多くは長年勤務の経験者である。結婚等による退職者があり後任者が来ると、利用者には事業所で報告、紹介し、家族には「ホームだより」で知らせている。家族の来訪時は、ほとんど見知った職員と話し合っている。なお、利用者毎の介助担当者は決めておらず、全職員が一体で取組んでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	伊勢市介護保険サービス事業連絡会、県グループホーム連絡協議会等の研修会、親睦会などに職員が交代で参加し、その内容は後日ミーティングで報告している。新任職員に対しては採用時研修をほぼ1日かけて実施している。全職員に対し、資格取得の学習を勧めており、介護福祉士資格を取得した職員もいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内7ヶ所のグループホームとの定期的な交流はないが、伊勢市介護保険サービス事業連絡会や三重県グループホーム連絡協議会を通じた交流は行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居中の利用者が少しずつ重度化しており、事業所としてのスペースもなく、体験入居は受け入れていない。待機者は15名いるが、入居の場合は申込者の心情や家庭状況を考慮し、現入居者との間で摩擦を起こさないよう配慮して受け入れることにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主体はあくまで利用者本人であり、職員はともに暮らす仲間である、との考え方で取組んでいる。そしてできること、できないことを見極めながら、その人なりにできることを引き出し、共感できる関係づくりを努力している。炊事、掃除、手芸等と一緒に取り組みながら、昔話を聞いたり、人生の先輩に教えてもらう態度で接している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人その人の心情や心身の状態に応じた援助に心がけ、職員はその人の会話や行動に注目し、ゆったりと対応するようにしている。例えば、排泄の失敗をしても一律にオムツ使用を決めるのではなく、その人としての失敗感やストレスに対してよりよい方法は何かを考えながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは3ヶ月(人によっては6ヶ月)毎に見直している。そのため、職員は日常的に利用者の気持ちを聞きだしたり、家族の要望、意見を聞いたりして、その結果をカンファレンスで話し合い、プランに反映するようにしている。なお、利用者ごとの介助担当者は決めておらず、全職員が一体となって取組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者それぞれの心身の状態についての意見を職員全体で話し合い、それをプランに反映させるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所内で定期健診をしたり、「ホームだより」で認知症について説明したり、利用者別にその人が希望する場所へ外出したり、入院中の利用者には遠方の家族に代わって世話をしたりして、事業所として出来ることをしている。できるだけ外出する工夫をし、外出する場合、ユニットにこだわらず一緒に出かけることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が毎週火曜日、そこの訪問看護が毎週水曜日に定期的に訪問してくれている。精神科専門医を必要な場合は、協力医療機関が紹介してくれている。また歯科や入院を要する際の受け入れは、市内の医療機関との連携によりスムーズに対応してもらえる体制である。なお、本人にこれまでのかかりつけ医がある場合は、そこへ通院できるよう家族とも連絡し合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する指針を昨年作成したが、その内容は全職員で繰り返し確認し、共通理解している。また家族とも話し合い、できる限りの看取りケアをすることになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部の人には目にふれないよう、ファイルの管理には注意している。また記録する場合、もしもの時のために特定個人が分からないよう、記入方法を工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体はあくまで利用者であり、職員はともに暮らす仲間であると考えている。その人の個性やできることを見極め、自己決定を呼び起こしていく支援をしている。誕生日会はその人毎に企画し、みんなでお祝いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2階ユニット、3階ユニットで別々に献立希望(献立の希望はよく出ている)を聞いている。ユニット毎に利用者と一緒に買い物に行き、一緒に調理し、盛り付け、配膳、後片付けをするようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも好きな時に入浴できるよう、入浴日や時間の制限はしていない。夕食後の入浴も可能であるが、今は全員が昼間に入浴している。入浴を拒否する人がいないので、比較的スムーズに援助できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好みや能力を生かすよう配慮している。全介助の人でも俳句をつくったり、字が上手な人が短冊に清書したり、花づくりが好きな人は水遣りを受け持ったり、読書好きな人は毎週本屋によったり、歌好きな人が楽しく歌えるよう環境を整えたり、さまざまな工夫がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ閉じこもりをなくし、外の空気と触れ合うような働きかけをしている。日常的に散歩に出て途中で買い物したり、喫茶店に寄ったり、外食を計画したりしている。散歩には3~4人ずつ、外食には6~7人を誘い合って出かけている。今年は一泊旅行に出かけたグループもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3階建てで事業所居室は2階、3階にあり、表道路は交通が激しいので、1階に誰もいない時は施錠せざるを得ないが、居室のベランダにはストッパーはなく、出入り自由である。職員は、利用者の動きや危険防止に心がけ、姿が見えない人がいればすぐ相互に確認し合っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが策定され、これによって毎年2回非難救助訓練を行っている。運営推進会議で地域防災について協議しており、地域の「まちづくり協議会」の消防訓練にも参加している。	○	防災訓練の機会に、全職員が心臓マッサージやAED(自動体外式除細動器)について学んだり、昨年は夜間想定訓練をしたり、いろいろと努力をしている。しかし他人の命を預かる施設であり、どんな事態でも対応できるよう、今後とも一層充実した取組みをされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、一人一人の体調や栄養摂取状態を概ね把握しており、水分補給にも気を配っている。また固形物が食べられない人には、ミキサー食やゼリー状補助食品を提供するなどの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族が作成した絵や手芸品、職員が写した写真等が飾られ、季節の花が置かれており、過ごしやすい雰囲気づくりにしている。慰問のボランティアとして、フラダンスのグループや幼稚園児がやってきたりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所としてベッド、椅子、クローゼットはセットしている。しかし何を持ち込むか、制限はしておらず好きなものを持参するよう説明している。それで日用品をはじめ、整理たんす、化粧台等を持ち込んだり、三味線を持ってきた人もみえる。自分用ベッドを持ち込んでいる方もみえる。		